

論理的思考力を育む学習指導の工夫 ～「書くこと名人」を取り入れた意見文を書く活動を通して～

那覇市立識名小学校教諭 長元 智

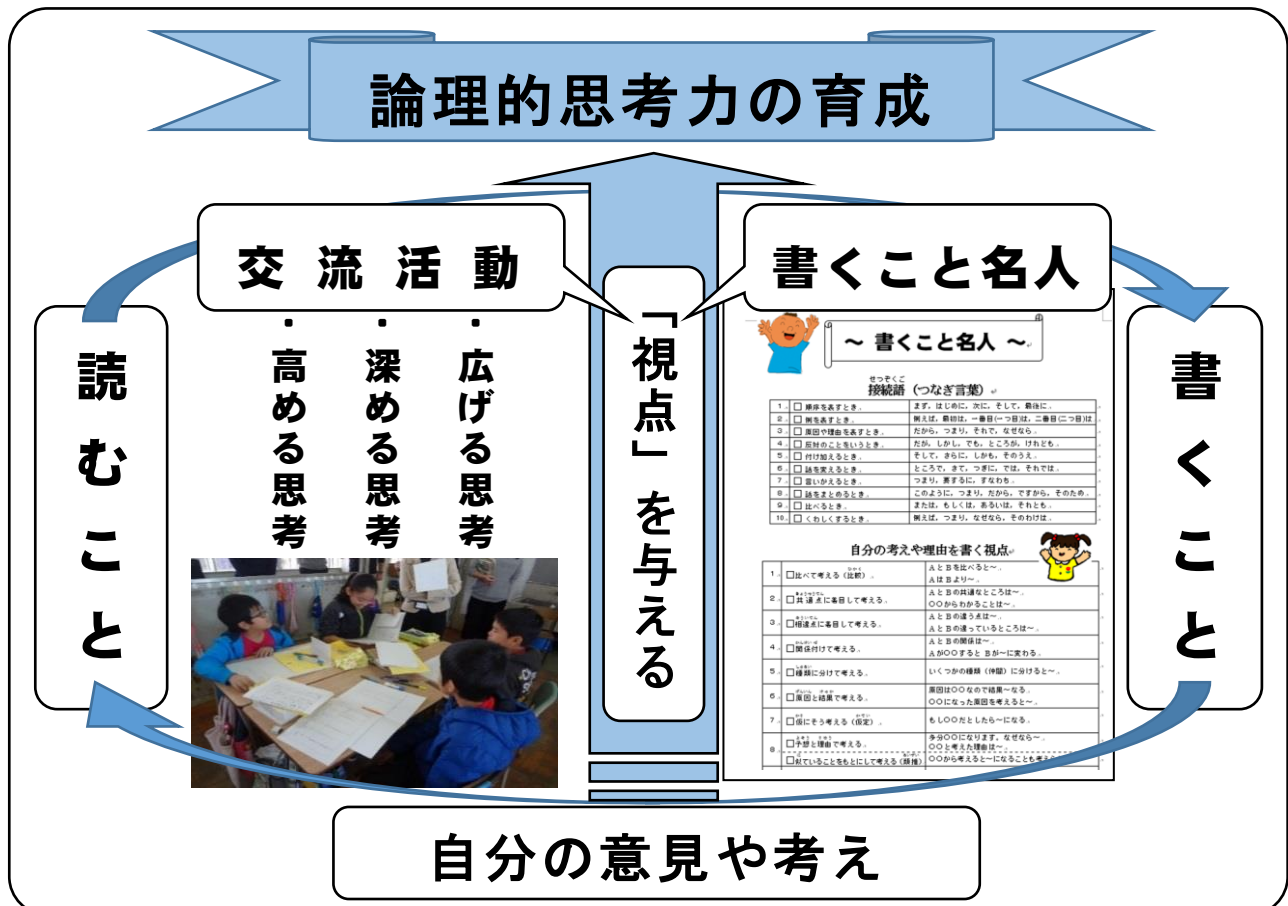
〈研究の概要〉

中央教育審議会答申(2016.12)において、我が国の子供たちは「目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすること」について課題があると指摘されている。また、平成29年度全国学力・学習状況調査結果における本校の実態においても、「目的や意図に応じ必要な内容を整理して書くことができるか」について、全国同様の課題がみられた。

そこで本研究においては、書く活動及び交流活動のなかで「書くこと名人」を取り入れた学習指導の工夫を行い、自分の考えを明確にしながら読んだり理由や根拠を持って筋道を立てて書いたりする指導の有効性について検証した。その結果、児童は自分の考えや友達の考えに対して「比較」や「関係付け」、「仮定」といった視点を取り入れ、理由や根拠を明確に持って思考する姿がみられた。

このことは、国語科における論理的思考力の育成につながるものだと考える。

〈研究のイメージ〉



目 次

I	テーマ設定の理由	33
II	研究目標	33
III	研究仮説	33
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	34
V	研究内容	34
1	国語科における論理的思考力について	
(1)	論理的思考力とは	
(2)	論理的思考力を支えるもの	
(3)	論理的思考力を育成するには	
2	書く活動について	
3	交流活動について	
VI	授業実践（第5学年）	37
1	単元名 多様な資料を読み取り，根拠を明確にして書こう 教材名 『世界遺産 白神山地からの提言』 ～意見文を書こう～	
2	単元目標	
3	単元の指導計画（全10時）	
4	本時の学習	
(1)	本時の目標	
(2)	授業仮説	
(3)	本時の展開（8/10）	
VII	結果と考察	38
1	作業仮説(1)の検証	
	【結果】 【考察】	
2	作業仮説(2)の検証	
	【結果】 【考察】	
VIII	成果と課題	40
1	成果	
2	課題	

論理的思考力を育む学習指導の工夫 ～「書くこと名人」を取り入れた意見文を書く活動を通して～

那覇市立識名小学校教諭 長元 智

I テーマ設定の理由

新学習指導要領改訂へ向けた審議のまとめ(2016.8)において、我が国の子供たちは、「判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること」について課題が指摘されている。また、中央教育審議会答申(2016.12)においても、「目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすること」について課題があり、更なる指導の充実が求められている。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果においては、「目的や意図に応じ必要な内容を整理して書くことができるか」を問う問題で、平均正答率が全国で34.4%、本校においても31.8%と同様の課題がみられた。目的や意図に応じ、理由や根拠を明確に示しながら相手に伝える力については、これからの時代を生きる子供たちにとって欠かすことのできない資質・能力の一つであると考ええる。

これまでの実践を振り返ると、書かれていることをイメージや感覚だけでなぞり読みするのではなく、国語科の原理・原則に基づくなかで身に付けたい力の明確化を図ってきた。また、3領域1事項における指導の系統を意識した授業展開を行うことにより、児童は「何をどのように学ぶか」という具体的な方法を獲得し、主体的に学びへと向かう姿勢もみられるようになってきた。しかしながら、自分の意見や考えを理由や根拠を明確に示しながら書いたり伝え合ったりすることについては、依然として課題がみられる。目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、事実と感想、意見等を区別して自分の考えをまとめることについて、改めて取り組むことの必要性を感じている。

そこで本研究においては、国語科における「読むこと」と「書くこと」の領域を関連させた授業実践を通して、「書くこと名人」を取り入れた書く活動及び交流活動の工夫を行っていく。そのことにより、自分の考えを明確にしながら読んだり理由や根拠を持って筋道を立てて書いたりする「論理的思考力」の育成を図ることができると考えた。

II 研究目標

国語科における論理的思考力の育成を目指し、「書くこと名人」を取り入れた書く活動及び交流活動の工夫の有効性を明らかにする。

III 研究仮説

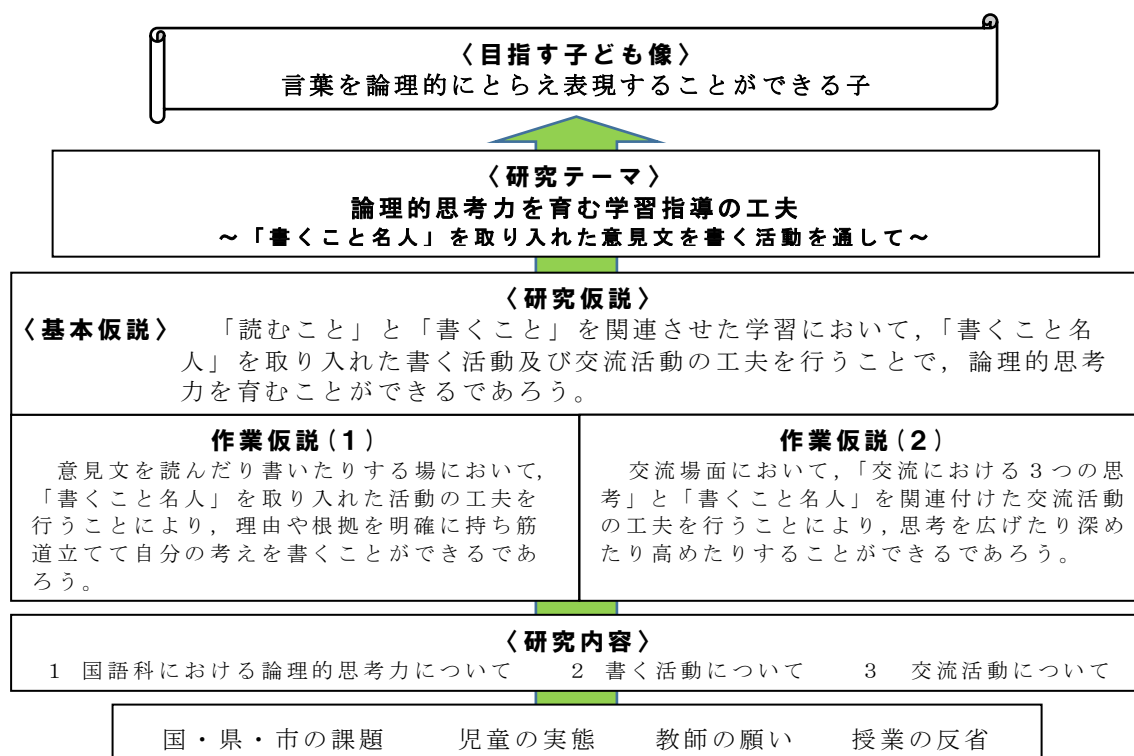
1 基本仮説

「読むこと」と「書くこと」を関連させた学習において、「書くこと名人」を取り入れた書く活動及び交流活動の工夫を行うことで、論理的思考力を育むことができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 意見文を読んだり書いたりする場において、「書くこと名人」を取り入れた活動の工夫を行うことにより、理由や根拠を明確に持ち筋道立てて自分の考えを書くことができるであろう。
- (2) 交流場面において、「交流における3つの思考」と「書くこと名人」を関連付けた交流活動の工夫を行うことにより、思考を広げたり深めたり高めたりすることができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 国語科における論理的思考力について

(1) 論理的思考力とは

広辞苑(2008 第六版)によれば、「論理」とは「思考の形式・法則。また、思考の法則的なつながり」とある。よって、国語科における「論理」とは、「語と語や文と文、段落と段落のつながりのなかで言葉と言葉の関係をとらえること」だと考える。

小学校学習指導要領解説国語編(以下「国語編」とする)においては、第5・6学年「B 書くこと」の指導事項「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」や「C 読むこと」の指導事項「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」等があり、その活動を支える根底となっているのが「論理的思考力」であると考ええる。

井上(2007)は、論理的思考力の定義として、「筋道の通った思考」「直感やイメージ

による思考に対して、分析、総合、抽象、比較、関係付けなどの概念的思考一般のこと」等を挙げている。また、野中(2016)は、論理的思考力を育む授業について、「ある課題を解決するために、読みの手立てを使って文章を読み、子どもが、その時はたらいだ思考を認識して、その価値を感じることができる授業」と述べている。そのなかで論理的思考力を、「①課題や問題に対する考えとその根拠・理由を様々な思考様式を用いて、相互に関連づけて思考を深めること、②関連づけた考えを、筋道を立てて表現したり理解したり評価したりすること」と定義している。

表 1 論理的思考力の定義 【筆者作成】

1 理由や根拠を明確に持ち、言葉を相互に関連付け思考する力
2 筋道を立てて、読んだり書いたり話し合ったりする力

そこで本研究においては、論理的思考力を表 1 のように定義し研究を進めていくこととする。

(2) 論理的思考力を支えるもの

新学習指導要領において育成を目指す資質・能力の三本柱として、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が示されたが、国語編における第 1 章 総説 2 国語科の改訂の趣旨及び要点のなかでは、「『知識及び技能』と『思考力・判断力・表現力等』は、相互に関連し合いながら育成される必要がある」と述べられている。

表 2 論理的思考力を支える「知識・技能」 【白石(2017)より引用】

白石(2016)は、言語能力の育成を目指す国語科における資質・能力を、「基礎・基本としての『知識・技能』を習得・活用して論理的に考える思考活動」とし、論理的思考を支える知識・技能を表 2 のように定義している。「用語」・「方法」・「原理・原則」とは、論理的に思考させる授業づくりにおいて土台となる 3 つの力であり、この習得・活用の授業を構成していくことが、子供たちを論理的思考へと向かわせることになると思う。

1 「用語」を習得し活用する力
2 「方法」を習得し活用する力
3 「原理・原則」を習得し活用する力

(3) 論理的思考力を育成するには

野中(2016)は、論理的思考力の育成について、「子どもが課題を解決する時、どんな思考がはたらいたかを自分で意識したときに育つ。はたらいた思考を自分で意識することにより、別の場面でも意識的にその思考を使おうとすることが可能になる。」と述べている。また、「教師が授業の中で、子どもの論理的思考力を育てようとした場合、教師は子どもの表現を思考様式という観点からも分析して、価値づけたり問い返したりする必要がある。」とも述べている。表 3 は、課題や問題に対する考えとその根拠・理由を相互に関連付けたものである。これ

表 3 思考様式の具体 【野中(2016)より引用】

順 序	・事象の時間的・空間的順序性、秩序性をとらえる思考
対 比	・対比的表現において差異性を見出す思考
類 比	・並列、列挙の表現において、共通性や類似性を見出す思考
分 類	・ある観点で複数のカテゴリーに分けて、ラベリングする ・類化、分類によって差異性、共通性を見出す思考
類 推	・ある法則を適用させて未知の事柄を推す思考 ・事象の推移や変化に発展性や法則性を見出す思考
帰 納	・帰納的に個別のそれぞれから共通性を見出す思考
演 繹	・演繹的に共通性をそれぞれの個性に及ぼして認める思考
因 果	・原因と結果の関係をとらえる思考
条件・限定 (仮定・推理)	・一定の範囲を決め事柄を整理する思考 ・仮定・推理によって蓋然的に判断する思考 ・物事の成り立つ条件をとらえる思考

らを，論理的思考力を支える自分の考えの「視点」として価値付け，言語活動のなかでどう具現化されていくかを追究していきたい。

2 書く活動について

田中（2017）は、『書くこと』は，自己を表現する行為であると共に，他者との交流を求める行為である。『書くこと』の学習に積極的に取り組む事によって、『もの』『こと』『ひと』について深く考え，自己を見つめ，他者を理解し，共に生きる社会を形成していこうとする『主体的・対話的で深い学び』が生まれてくるのである」と述べている。主体的に書くことが論理的な考えの形成・深化を育むことの基礎となり，論理的な思考を活かした書く活動の充実が意欲的な書き手を育てるものだと考える。

そこで，本研究においては，児童が論理的に思考するための手立てとして，表4「書くこと名人」を取り入れた書く活動の工夫を行っていく。その中で，「接続語」及び「自分の考えや理由を書く視点」に着目することにより，理由や根拠を明確に持って意見文を書くことができるようになるであろうと考える。

3 交流活動について

国語編においては，「B書くこと」「C読むこと」の領域において，交流に関する指導事項が系統立てて示されている。思考を伴った交流活動を通して自分の考えを広げ，深め，高めるなかで，伝え合う力を育てていくことが求められている。

そこで，交流に際して大切にしたいことが2つある。1つは，「何を話し合うのか」ということである。言い換えれば，話し合う「視点」を明確に示すということである。本研究における交流の視点として図1「交流における3つの思考」を挙げたい。学習を進めるにあたり，本時のめあてや指導事項，身に付けさせたい力との関連を勘案したうえで，適切な交流の視点を児童に提示していく。

もう1つは，「何のために話し合うのか」ということである。交流の「目的」を明確にすることにより，次時以降の学習活動へのつながりを意識した交流活動になると考える。交流を通して他者と関わる事で，そこには相互評価が生まれる。自分と他者との共通点や相違点が明確になることで自己評価も可能となり，交流から得た学びから再度書いた意見文を見直し，推敲へとつなげることができる。そのことが，交流活動のねらいの一つであると考えられる。

表4 書くこと名人【筆者作成】

接続語（つなぎ言葉）		
1	☐ 順序を表すとき	まず，はじめに，次に，そして，最後に
2	☐ 例を表すとき	例えば，最初は，一番目（一つ目）は
3	☐ 原因や理由を表すとき	だから，つまり，それで，なぜなら
4	☐ 反対のことをいうとき	だが，しかし，でも，ところが，けれども
5	☐ 付け加えるとき	そして，さらに，しかも，そのうえ
6	☐ 話を変えるとき	ところで，さて，つぎに，では，それでは
7	☐ 言いかえるとき	つまり，要するに，すなわち
8	☐ 話をまとめるとき	このように，つまり，だから，ですから
9	☐ 比べるとき	または，もしくは，あるいは，それとも
10	☐ くわしくするとき	例えば，つまり，なぜなら，そのわけは

自分の考えや理由を書く視点		
1	☐ 比べて考える（比較）	・AとBを比べると～ ・AはBより～
2	☐ 共通点に着目して考える	・AとBの共通なところは～ ・〇〇からわかることは～
3	☐ 相違点に着目して考える	・AとBの違う点は～ ・AとBの違っているところは～
4	☐ 関係付けて考える	・AとBの関係は～ ・Aが〇〇するとBが～に変わる
5	☐ 種類に分けて考える	・いくつかの種類に分けると～
6	☐ 原因と結果で考える	・原因は〇〇なので結果～なる ・〇〇になった原因を考えると～
7	☐ 仮にそう考える（仮定）	・もし〇〇だとしたら～になる
8	☐ 予想と理由で考える	・多分〇〇になります。なぜなら～ ・〇〇と考えた理由は～
9	☐ 見方（視点）を変えて考える	・〇〇から考えると～になることも考えられる ・〇〇から考えると～ですが，□□から考えると～
10	☐ 置きかえて考える	・言いかえると～ ・簡単に言うとも～ ・分かりやすく言うとも～

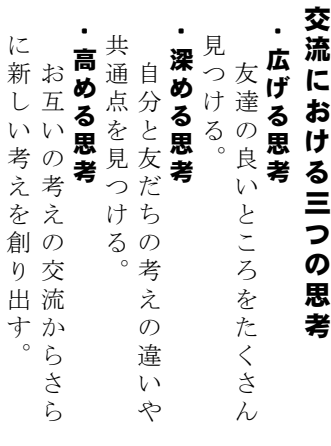


図1 交流における3つの思考
【『シリーズ国語授業づくり
交流』を参考に筆者作成】

VI 授業実践（第5学年）

1 単元名 多様な情報を読み取り，根拠を明確にして書こう

教材名 『世界遺産 白神山地からの提言』 ～意見文を書こう～

2 単元目標

多様な文章や資料を比べながら読み，自分の考えを深め，その考えが伝わるように理由や根拠を明確にして意見文を書く。

3 単元の指導計画

次 時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目 (方 法)
1 1	・「世界遺産 白神山地からの提言」を読み内容の大体をとらえ，単元の学習計画を確認する。	・分かったことや疑問に思ったこと，自分の立場について考えを交流する。 ・「意見文を書く」という言語活動を通して交流を行うという単元全体の見通しを持たせるようにする。	【関】白神山地について興味・関心を持ち，単元の学習の見通しを持っている。 (発言・ノート)
2	2	・「ブナの森が支える豊かな自然」を読み，白神山地の自然の様子についてまとめる。	【読ウ】自然の様子や自然保護のあり方についてとらえている。 (ノート)
	3	・「白神山地の自然保護『緩衝地域』の役割」を読み，白神山地の自然保護のあり方についてまとめる。	【読ウ】自然の様子や自然保護のあり方についてとらえている。 (ノート)
	4	・資料1～6を読み，資料から読み取れることをまとめる。	【読イ】資料をもとに，効果的な読み方を工夫している。(ノート)
3	5	・自然保護のあり方に対する自分の立場を決め，その理由について話し合う。 ・意見文例を読む。	【書ア】自分の立場を明確に持ち，意見文を書くための情報を集めている。 (発言・ノート)
	6	・理由や根拠を明確にして構成メモを書く。 ・「書くこと名人」について確認する。	【書イ】自分の立場や意見と理由・根拠を結び付けて構成メモを書いている。(ワークシート)
	7	・「書くこと名人」を活用し，文章の構成や表現の効果を考えて意見文を書く。(400字程度)	【書エ】自分の立場を明確に持ち，理由や根拠を示して書いている。 (原稿用紙)
	8 本時	・交流活動を行い，友達の書いた意見文の良さを見つける。【交流①】	【書カ】表現の仕方に着目して助言し合う。 (発言・ワークシート)
	9	・文章の構成や表現の効果を考えて推敲・清書する。	【書オ】表現の効果を確かめながら推敲している。 (原稿用紙)
	10	・交流活動を行い，自分の考えを広げたり深めたり高めたりする。【交流②】 ・単元の学習をふり返る。	【書カ】表現の仕方に着目して助言し合う。 (発言・ワークシート)

4 本時の学習（8/10時）

(1) 本時の目標

意見文の交流を行い，自分の考えを広げたり深めたり高めたりする。

(2) 授業仮説

交流場面において，交流の視点（広げる思考・深める思考・高める思考）を示し，手順及びグルーピングを工夫することにより，友達の意見文の良さに気付き，推敲・清書へとつなげることができるであろう。

(3) 本時の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価項目(方法)
導 入 5 分	1 前時までの学習内容を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。	○学習計画表を活用する。	
	めあて：交流活動を行い、友達の書いた意見文の良さを見つけよう。		
展 開 30 分	3 交流の視点について確認する。 4 意見文を読み合い、交流する。 (1) 同じ立場同士で交流する (2) 違う立場同士で交流する この部分は、4番の「関係付けで考える」が使われているよ。	○交流の視点を示し、目的を明確にする。 ○交流の手順及びグルーピングについて説明する。 ○自然保護に対する立場とその理由・根拠を結び付けて書いているかを意識して読ませる。 ○接続語に着目して読ませる。 ○「なか」の部分の根拠や理由の表現の仕方に目をつけて読ませる。 ○意見文の内容を否定せずに受け止めるよう助言する。 ○お互いが読み合った後に、感想・評価・助言の視点でアドバイスし合うことを促す。 どの視点を使ったらいいかな。	【書力】 〈概ね満足〉 文書の構成や表現の仕方に着目して意見文を読み、交流を通して考えを広げている。 〈十分満足〉 文章の構成や表現の仕方に着目して意見文を読み、交流を通して考えを深めたり高めたりしている。 (発言) (ワークシート)
ま と め 10 分	5 本時の学習の振り返りを書く。 6 次時の学習への見通しを持たせる。	○「書くこと名人」や「交流の3つの思考」を意識して書かせたい。 ○立場が同じでも、理由や根拠となる資料が異なる場合があることに気付かせたい。 ○推敲・清書への意欲を持たせる。	

Ⅶ 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

意見文を読んだり書いたりする場において、「書くこと名人」を取り入れた活動の工夫を行うことにより、理由や根拠を明確に持ち筋道立てて自分の考えを書くことができるであろう。

【結果】

第6～7時にかけて、「書くこと名人」を活用した構成メモ及び意見文を書く活動の工夫を行った。「書くこと」に関するアンケート結果からは、「意見文を書くにあたり『書くこと名人』は使いやすかったですか」の問いに対して86%の児童が「使いやすかった」と回答している。また、「理由や根拠をはっきりとさせて文章を書いていますか」の問いに対して92%（書いた：67%，まあまあ書いた：25%）の児童が「意識して書いた」と回答しており、事前アンケートと比較すると、49ポイントの伸びがみられた（図2）。

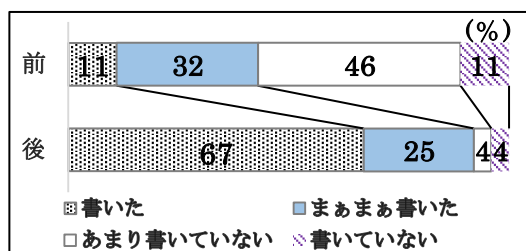


図2 理由や根拠をはっきりとさせて書いていますか

意見文を書くにあたり、「書くこと名人」に示した「比較」や「関係付け」、「仮定」といった視点の活用が見られた児童は全体の71%となった。A児（次頁：図3参照）は、

資料の中の一文「今ぼくたちが生きていられるのは自然のおかげ」を資料から引用し、自分の生活や経験と照らし合わせながら「関係付ける」の視点を取り入れ理由を書いている。B児（図4参照）は、「自然破壊が起りかねません」という予想を立て、その理由を資料から引用し、「予想と理由で考える」の視点を取り入れている。

また、「書くこと名人」の☑欄の活用（図5参照）によって、意見文を書く際に自分がどの視点を取り入れたのかという推敲前後の変容を足跡として残すこともできた。「書くこと名人」の活用の効果に関しては、単元終了後のアンケート（表5参照）から右記のような記述がみられた。

【考察】

これらのことから、児童は自分の考えに「書くこと名人」の「視点」を取り入れ、理由や根拠を明確に持つことができたことが分かる。

「書くこと名人」の活用により、

「視点が活かされている」ということへの気づき生まれ、さらにそれを自覚化することにより、筋道立てた意見文を書くことにつながっている。こうした児童の様子から、「書くこと名人」を活用することは、意見文を書く際に有効な手立てであると考ええる。

2 作業仮説(2)の検証

交流場面において、「交流における3つの思考」と「書くこと名人」を関連付けた交流活動の工夫を行うことにより、思考を広げたり深めたり高めたりすることができるであろう。

【結果】

第8・10時の交流活動において、「交流における3つの思考」（図1参照）を児童に提示し、「何を話し合うのか」「何のために話し合うのか」という交流の「目的と手順」を明確



図3 「関係付ける」の視点を取り入れたA児

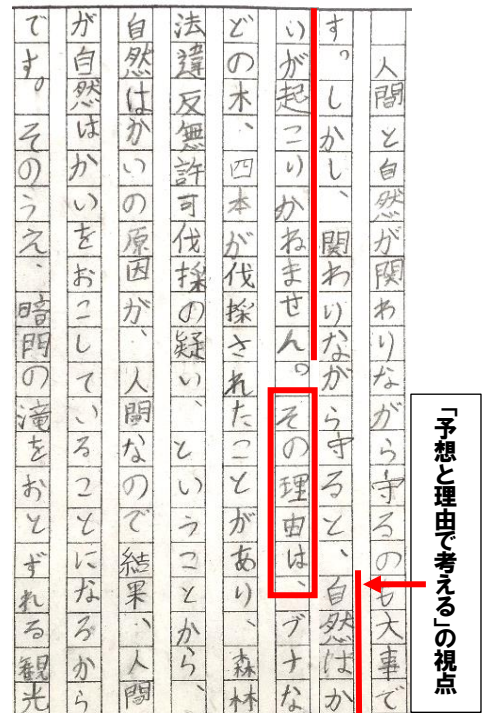


図4 「予想と理由で考える」の視点を取り入れたB児

表5 単元終了後のアンケート記述

C児：「比べて考える」が使えるようになった。
D児：接続語を気を付けて使おうと思うようになった。
E児：根拠を明確にして書くことができた。
F児：書くこと名人の視点を使うとよい文になった。

6	☒ 原因と結果で考える	原因は〇〇なので結果～なる 〇〇になった原因を考えると～
7	☒ 仮にそう考える（仮定）	もし〇〇だとしたら～になる
8	☒ 予想と理由で考える	〇〇と考えた理由は～
	☐ 似ていることをもとにして考える（類推）	〇〇から考えると～になることも考えられる

図5 書くこと名人 ☑欄の活用

に持たせること
を指導してき
た。アンケート
結果から、89%

表6 交流活動についての記述

G児：交流を通して自分の考えが深まり、意見文を書くのに役立ったから。
H児：自分の意見文との相違点や共通点を見つける事ができたから。
I児：友達の意見文の良いところを推敲するときに生かせそうだったから。

の児童が交流活動に積極的に取
り組む事ができたと回答してお
り、理由として表6のように挙
げている。

交流②の振り返り（表7参照）
からは、「書くこと名人」と「交

表7 交流②の振り返りより

・「広げる思考」から「深める思考」へ

J児：今日は良いところだけでなく、友達の考えと自
分の考えの共通点を見つけることができた。

・「関係付けて考える」の視点を生かして「深める思考」へ

K児：Lさんの意見文は、人間と自然との関係を分か
りやすく書いていてすごくいいなと思いました。

流における3つの思考」を関連付けた交流活動によって思考の広
がりや深まりがみられたことが分かる。また、図6は、第8時の
交流後の振り返りにおいて「次は『仮に』を使ってみたい」と記述した
児童が、第9時の意見文を推敲する活動へと生かすことができて
いる様子である。交流場面における「書くこと名人」の活用が「高
める思考」へとつながることとなった。

【考察】

これらのことから、児童は「書くこと名人」を活用することによ
り、自分と友達の意見の共通点や相違点に着目しながら交流活
動を行うことができたことが分かる。その過程において、児童の
思考は「広げる」「深める」「高める」思考へと変容し、論理的思
考力の基礎を育む事ができたと考える。よって、「書くこと名人」
と「交流における3つの思考」を関連付けた交流活動の工夫は、
意見文を読み交流するにあたって有効な手立てであると考え

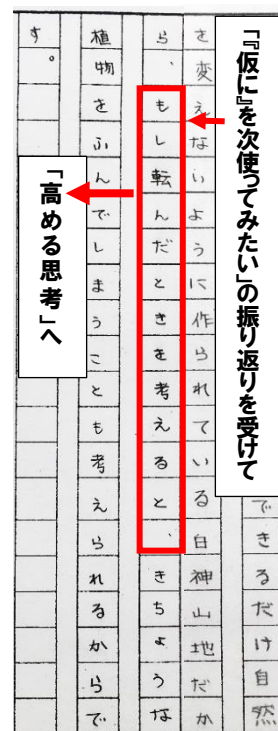


図6 推敲に生かされた
「書くこと名人」

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 意見文を書く活動において、「書くこと名人」を活用する
ことにより理由や根拠を明確に持ち、筋道立てた文章を書くことができた。
- (2) 交流場面において、「書くこと名人」と「交流における3つの思考」を関連付けた活動の工夫を行うことにより、自分の考えに広がりや深まりがみられた。

2 課題

- (1) 論理的思考力の育成において、「書くこと名人」を3領域【話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと】で相互に関連付け活用する学習活動の工夫が必要である。
- (2) 交流活動における「3つの思考」の更なる充実へ向けて、論理的思考力を支える「知識・技能」の継続的な指導の工夫が必要である。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説 国語編』
『国語授業を変える 原理・原則』
『生きてはたらく 論理的思考力』
『シリーズ 国語授業づくり 交流』

文部科学省
白石範孝
野中太一
日本国語教育学会

東洋館出版社 2008
文溪堂 2017
東洋館出版社 2016
東洋館出版社 2015